

巻頭言

予防鍼灸研究会雑誌第4巻発刊に寄せて

皆様、このたび予防鍼灸研究会雑誌第4巻をお手に取っていただき、誠にありがとうございます。

本号には2025年11月30日（日）に千葉縣市川市にて当会初の現地開催となった「第23回定例会・発足5周年記念講演会」の内容が多数収録されています。

その際のテーマでもあったジストニアを特集として取り上げ、宮本亮介先生による「ジストニアの診断と治療・病態」を解説として掲載しています。

同定例会内の企画として実施した「ミニ鍼灸万博」では、ソフト指圧や浮腫に対する軽擦法、化学療法誘発性末梢神経障害に対する鍼灸、鍼灸と運動療法を組み合わせた疾病予防の試みなど、多彩な発表が行われました。また、東洋思想とも深く関わる「易占い」をテーマとした発表も行われました。こうした実践を文字として記録し共有できることにも、大きな意義を感じています。

さらに、本号には原著論文として「『糖尿病／物忘れ教室』の意義と役割 —10年間の成果—」を足立先生よりご寄稿いただきました。地域住民を対象に10年間継続されてきた実践を通じ、糖尿病と認知症予防における継続的な関わりの重要性を示す、大変貴重な報告となっています。

そして、和泉唯信先生による「思いは繋がる ～ALS新規治療薬ロゼバラミンの開発～」ならびに、山本高穂氏による「鍼灸はなぜ効くのか？」の2講演は、「特別例会2025」においてご講演いただいたものであり、医学・鍼灸の双方に深い示唆を与える非常に印象的な内容でした。これらを講演録として誌面に残すことができたことを、大変嬉しく思っております。

本誌が、読者の皆様にとって新たな学びや気づきにつながり、日々の臨床・研究・教育への一助となれば幸いです。

最後に、第4巻の刊行にあたり、ご寄稿・編集・制作にご尽力くださったすべての皆様に深く感謝申し上げます。

2026年5月
予防鍼灸研究会 会長
金井友佑